

○事業所名	豊橋くすのき学園			
○保護者評価実施期間	令和7年11月5日 ～ 令和7年11月14日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数)	25
○従業者評価実施期間	令和7年11月25日 ～ 令和7年12月12日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)	17
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園の事業所として51年の歴史があり、療育の積み重ねがある。	月ごとに職員同士で打合せをし、療育プログラムを設定して実施している。登園児の状況によって、個別にその内容を合わせるなど柔軟に内容に対応させている。	既存のプログラムを深める。 新しい療育プログラムの開発。
2	親子通園のため、お子さん自身のことを知ってもらえ、しっかりとした親子関係が築ける。お子さん、保護者、職員が同じ時間を共有しているため、タイムリーに話や具体的な関わりを一緒に考えていくことができる。	親子通園のクラスにも複数の職員を配置し、いつでも話し合いができるようにしている。	話し合いができる職員の支援力の差があるため、学びの機会を常に設けていく。
3	他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等との連携を図り、地域全体の質の向上に対する取り組みを行っている。	自立支援協議会やこども支援専門部会、市が主催する会議等に参加している。また、他の児童発達支援事業所の専門職に助言を仰ぎ、支援の質の向上につなげている。	児童発達支援センターとして、地域における中核的な役割を果たす取り組み（地域の子育て支援センターへの訪問、ペアレントトレーニング、研修の機会、交流会の開催など）。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	単独通園は利用率が80%を超えているが、親子通園の利用率が25%に留まっている。	働く保護者が増え、併行通園が多くなっている。	保護者の利便性を図り、登園率を上げていく。
2	定員、子どもの状態、実施している事業に対して適切な職員数が確保できていない。	配置基準は満たしているが、児童発達支援センターとしての業務が増えている。	利用率を上げ、収入を増やし、職員を確保していく。
3	職員個々の支援力に差がある。	療育の経験年数の差がある。	療育についての研修やOJTを行い、支援力の向上を目指す。